

『岩見沢市における

除排雪に対する提案書』

～ 市民・業者・行政

三方良しの除排雪体制を目指して ～

『岩見沢市における

除排雪に対する提案書』

～ 市民・業者・行政

三方良しの除排雪体制を目指して ～

岩見沢シチズン



## 【目次】

1. はじめに	3 p
2. 岩見沢市の除排雪体制	4 p
(1) 岩見沢の雪と市民生活	
(2) 岩見沢市の除排雪現況	
(3) 地域との取り組み	
(4) その他	
◆ 参考資料 自治体毎除排雪事業比較表	
3. 参考事例 ～岩見沢シチズンが見た他市の取り組み～	8 p
(1) 札幌市西区「地域と創る冬みち懇談会」	
(2) 札幌市豊平区「冬道アドバイザー認定講座」	
(3) 旭川市議会「市民と議会の意見交換会 地域における除雪活動」	
4. わたしたちの取り組み ～岩見沢市における地域除排雪懇話会～	17 p
(1) 開催経緯	
(2) 開催方法	
(3) 地域懇話会実施報告	
①上幌向地区	
②緑が丘地区	
5. まとめ ～三方良しの除排雪体制の実現に向けて～	25 p
6. おわりに	27 p

## 1. はじめに

私たち「岩見沢シチズン」は、自分たちの地域の課題を解決するために集まった40歳代以下を中心とした仲間です。誰もがご承知の通り、これからの日本の地方都市は人口減少、少子高齢化に伴う流れの中で非常に難しい状況に陥ることが予想されています。近い将来まちがいなく訪れる危惧すべき状況の中で、私たちはどういう姿を目指すべきか。そのような課題に対し、人口約8万7千人を有するまちでありながら豪雪で名高い岩見沢市の「除排雪に伴う課題」がそのまま行政課題の縮図として当てはまると考えました。

現在の岩見沢市の除排雪は、他の自治体に比べ遙かに質の高い作業が行われていると考えています。にも関わらず、一部の住民は行政サービスに必要以上とも言える過度な期待をし、それに応えようとする行政は年々除排雪に関する費用が膨らむ。また、業者は請負契約内容以上の作業を行いつつも市民理解を得られず疲弊していく。事前調査の段階から、そのような悪循環と言っても過言ではない状況が垣間見えました。

そこで私たちは、市民、業者、行政が互いに理解しあい、互いに尊重できる環境を構築することがこれからの行政課題を解決していくための切り口になると仮定しました。そのためには、まずは三者のそれぞれの立場を知ることが重要です。自分たちの住むまちの除排雪のレベルがどれほどのものなのか。また、今の除排雪に関する予算は適正なのか。どこまでを住民が担い、どこからが行政が担うのか。そんな一つひとつの状況を整理し共有していくことが、これから必要とされることだろうと考えます。その仮定に基づき他都市の事例を紐解く中で、すでにそうした動きは活発化しており、この岩見沢市においても相互理解の場を構築していくことが急務であると確信しました。

時代はすでに「市民満足度」を追い求められる状況ではないと考えます。私たちはその次のステップである市民が自ら状況を把握し、それぞれが納得できる環境を整えること。それこそが「市民納得度」の向上に繋がり、これから訪れるであろう難しい時代における行政と市民の連携の姿であると考え、自信を深めています。まずは今回の除排雪作業を通し、「市民納得度」を上げていくための行動が必要であると考え、本提案書をお届けします。

平成26年5月吉日  
岩見沢シチズン  
代表 内田茂伸

## 2. 岩見沢市の除排雪体制

### (1) 岩見沢の雪と市民生活

岩見沢は国から特別豪雪地帯の指定を受けるほどに降雪量の多い地域であり、その雪の多さは毎年市民生活に大きな影響を与えています。しかしながら、雪による市民生活への影響を最小限に留めるため、岩見沢市では様々な対策を行っています。

岩見沢市は冬期間、除排雪対策本部を設置し、道路のパトロールや緊急時における対応、弱者への安全対策を行っています。また、情報の収集及び発信の一元化を図り、集めた情報は岩見沢市ホームページ、メールサービス、ラジオ、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など様々な形で発信しています。

更に、毎年道内各地で事故の絶えない屋根の雪下ろしの安全性を高めるため、雪下ろし安全講習会の開催や命綱・安全帯・ヘルメットの3点をセットにして、無償で貸し出しを行っています。

また、岩見沢市社会福祉協議会では毎年除雪ボランティアを募り、自力で除雪が困難な世帯に対して、町会（自治会）、企業、市民団体と協力しながら除雪活動を行っています。毎年多くのボランティアに参加していただき、しっかりとした協力体制を構築しています。

このように、市民と行政がともに力を合わせ、雪対策に取り組むことによって、雪のまち岩見沢の市民生活を守っています。

（岩見沢市ホームページより抜粋）

### (2) 岩見沢市の除排雪現況

#### ● 管理・運営方法

- ・発注元：岩見沢市除排雪対策本部～降雪に合わせて作る臨時部局横断組織で、本部長は市長。
- ・受注先：請負業者によるJV受注（12普通工区と4特別工区）
- ・金額：平均 約 14 億円
- ・除雪出動基準：新雪降雪（予想も含めて）10cm

#### ● 降雪及び決算状況

年度	総降雪量	最大積雪深	決算額	一般歳出における割合
H21	697 cm	98 cm	7 億 8,429 万円	約 1.7%
H22	632 cm	133 cm	10 億 5,819 万円	約 2.4%
H23	1,040 cm	208 cm	20 億 4,075 万円	約 4.4%
H24	877 cm	164 cm	13 億 7,696 万円	約 2.9%
H25	685 cm	144 cm	13 億 6,342 万円	一般歳出決算未定のため算出不能

\*平成 23 年度は、降雪量平年比約 1.5 倍、積雪量平年比約 2.1 倍。

\*平成 24 年度は、降雪量平年比約 1.2 倍、積雪量平年比約 1.6 倍。

\*平成 25 年度の降雪量及び積雪深は 3 月 31 日現在、決算額は見込み額。

● 除排雪状況

区 分			H23 年度実績	H24 年度実績	H25 年度実績
除 雪	委 託 (16 工区)	道 路 除 雪	956.2 km	956.5 km	957.1 km
		歩 道 除 雪	135.1 km	136.3 km	137.1 km
	直 轄	雪割・吹飛ばし・肩積	289.9 km	289.9 km	190.7 km
排 雪	委 託	運 搬 排 雪	220.0 km	220.0 km	147.9 km
	直 轄		100.4 km	100.4 km	56.6 km

\* 前年度の豪雪を受けて、平成 24 年度に 43 工区から 16 工区へ見直し。

\* 基本的に、降雪（予想）10 cm で出動し、午前 7 時までに終わらせる。

\* ただし、出動が午前 1～2 時なので、それ以降の降雪については対応が遅れる。

● 使用車両及び作業人員数（平成 25 年度）

- ・ 岩見沢市所有車両 . . . . . 40 台
- ・ 委託業者使用車両 . . . . . およそ 164 台
- ・ 作業人員数 . . . . . 不明（算出していない）

● 平成 25 年度雪堆積場使用状況

- ・ 市民雪堆積場 . . . . . 4 か所、984,214 m<sup>3</sup>
- ・ 路線等雪堆積場 . . . . . 16 か所、705,068 m<sup>3</sup>

● 要望・苦情件数

区分	H21	H22	H23	H24	H25
要望・苦情等	445 件	1,346 件	4,984 件	1,404 件	2,051 件
その他（感謝等）	17 件	75 件	327 件	82 件	59 件
合計	462 件	1,421 件	5,311 件	1,486 件	2,110 件

\* H21 年度の数字が平均的件数

\* 主要要望：①道路拡幅や路面整備 ②雪だしや雪捨て ③除排雪体制に関すること

\* 主な苦情：①置き雪 ②除雪が入らない ③除排雪の仕方に関すること

● 除排雪の様子



< 道路除雪 >



< 運搬排雪 >



< 除雪ボランティア >

### (3) 地域との取り組み

#### ● 除排雪懇談会開催実績

区 分	H23 年度実績	H24 年度実績	H25 年度実績
地 区 数	18 地区 125 町会	22 地区 180 町会	26 地区 192 町会
参 加 者	町会関係者 225 人 業 者 76 人	町会関係者 331 人 業 者 107 人	町会関係者 454 人 業 者 104 人

※すべての懇談会には、対策本部（市）より職員が複数名出席しています。

#### ● 地域自主排雪実施延長

年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
実施町会数	31 箇所	31 箇所	35 箇所
実施延長	186.6 km	133.6 km	181.1 km

※自主排雪実施までの流れ

町会等より計画書の提出→審査→支援決定→（終了後）報告書提出

※増えない理由

①負担金額（町会：市＝４４：５６）

②降雪状況により、町会が希望する日時と作業使用車両の空き予定が合わない。

### (4) その他

●屋根の雪下ろし費用の一部助成

●雪下ろし安全装備の貸し出し

●雪下ろし安全講習会の実施

●除雪ボランティア

●高齢者除雪支援事業

●地域除雪支援事業

●広報に除排雪に関する紙面（４ページ）あり

（平成 25 年 11 月号）

●冬の暮らしガイドブック配布

（平成 25 年 11 月発行）

など





◆ 参考資料 自治体毎除排雪事業比較表

都道府県名	市区町村名	人口(人)	総面積 (km <sup>2</sup> )	可住地面 積(km <sup>2</sup> )	財政指数	平均降雪 量(cm)	平成24年 度降雪量 (cm)	平成24年 度除雪費 (万)	住民一人 あたりの除 雪費(円)	車道除雪 延長(km)	歩道除雪 延長(km)	除雪基準 (cm)
北海道	岩見沢市	90,140	481.10	319.30	0.37	742	877	137,696	15,276	956.50	136.30	10
	札幌市	1,913,545	1,121.12	440.22	0.69	587	623	968,600	5,062	5,398.00	2,363.00	10
	旭川市	347,095	747.60	350.16	0.48	726	574	249,532	7,189	2,156.70	559.00	幹線 10 生活 15 歩道 10
	富良野市	24,259	600.97	198.73	0.32	697		17,000	7,008	571.60	58.80	10
	留萌市	24,457	297.51	51.52	0.29	681	570					10
	滝川市	43,170	115.82	101.98	0.36	909	855			407.29	66.15	10
	芦別市	16,628	865.02	137.27	0.25	728		19,280	11,595			
	美唄市	26,034	277.61	154.36	0.24	836						車道 13 歩道 10
	室蘭市	94,535	80.65	43.04	0.64	73						10
	千歳市	93,604	594.95	195.63	0.75	312	445	49,500	5,288	699.20	223.20	10
青森県	青森市	299,520	824.54	256.94	0.53	667	647	431,016	14,390	1,356.26	183.74	幹線 10 生活 15
	弘前市	183,473	524.12	294.58	0.45	757	770	196,600	10,715	996.51	124.00	10
	横手市	98,367	693.04	316.36	0.33	780	1,091	147,105	14,955	1,054.00	88.00	10
	仙北市(角館町)	29,568	1,093.64	151.26	0.25	698	697			481.50		10
	米沢市	89,401	548.74	133.09	0.52		735			608.80	70.70	10
	新庄市	38,850	223.08	95.57	0.46	812	966	89,787	23,111	222.00		
* 人口統計は、2013年総務省統計局発表数値												
* 面積統計は、2011年総務省統計局発表												
* 財政指数は、総務省発表各市町村平成24年度決算による												
(注)各データは、各自治体HPよりの抜粋です。抜け落ちているデータは、探すことができませんでした。												



### 3. 参考事例～岩見沢シチズンが見た他市の取り組み～

#### (1) 札幌市西区【地域と創る冬みち懇談会】の視察報告

日 時：平成 25 年 10 月 24 日（金）

場 所：ちえりあ

主 催：札幌市役所西区土木管理課

参加者：市役所職員、町内会役員、地区担当者

進 行：(株)キタバ

※特筆すべき事項として、中立的立場のコン  
サルが懇談会の業務を受託し、当日の司会  
進行を行う。

#### <当日進行スケジュール>

18:30～あいさつ

18:35～本日の流れの説明

18:40～札幌市の除雪事業について

19:00～テーブル討議

20:00～まとめと発表

20:20～質疑と応答

20:30～終了

本取り組みは非常に感銘を受けることが多いものであった。懇談会は基本的には町内会役員を対象としたものであり、特筆すべきは一方的な説明会や市民 VS 行政的構図による苦情・要望抽出の場ではなく、参加した市民、業者が肩を寄せ合い、自らが考えるワークショップ形式で進行している様子である。



#### [懇談会概要報告]

##### ○西土木センター 維持管理課長佐藤氏あいさつ [抜粋]

今年度予算は例年並み。雪取りには二種類ある。除雪と排雪。札幌市の問題は排雪場所の確保が難かいため運搬費がかかりすぎる。業者の体力低下・作業者の高齢化・重機も老朽化し更新が難しい。逆境の中であるが、限られた予算の中で満足してもらえるように地域懇談会を開催していきたい。テーブルディスカッションでは地域課題を抽出したい。何でも聞くわけにはいかないが、行政と地域が話し合って、力を入れるところ、抜くところと一緒に決めていくのが重要。例えば、降雪量 10 センチの基準について、ある町内会では 20 cmまで我慢するから、出勤回数を減らし、減った分の費用で交差点の雪山を削るとか、地域の特性にあった除雪をしていきたい。



##### ○除雪センターと業者の紹介

##### ○札幌市の除雪事業の説明～維持係長より(プレゼンソフト使用) [以下、内容抜粋]

- ① 新雪除雪～降雪 10 cm～地域によっては違う。道路幅員 8m以上の道路でなければ入らない。原則かき分け除雪。
- ② 路面整正～圧雪が溶けてザクザクになるので、削り取る作業。

- ③ 拡幅除雪～道路脇の雪を積み上げ、歩行や走行のできる道路幅を確保する。
- ④ 歩道除雪～歩道部の雪を車道側に積み上げて歩道幅を確保。(幅員 2m 以上で歩行者の多い場所・駅前や通学路など、極度に要望が多いところはハンドロータリーで実施、幅員 2m 以上あるところも雪を置く車道が広く取れるところに限定。)
- ⑤ 運搬排雪～道路脇の雪をダンプトラックに積み込んで、雪堆積場へ運ぶ(4 車線以上の幹線道路・主要な 2 車線道路(バス路線等の補助幹線道路・通学路というごく限られた道路のみで実施)
  - ・生活道路はパートナーシップ排雪制度を実施～シーズンを通して 1 回のみ。2 月ごろがピークなので、その頃に順繰り回る。
  - ・12 月 1 日の単価で実施する。
  - ・パートナーシップ排雪は幅員 10m 以上の道路は市が受け持つので、10m 未満の道路が対象である。
  - ・パートナーシップ排雪の他に、市民助成トラック制度がある。～市がダンプの貸出を無料でを行い、地域積み込み作業や安全管理を行う。
- ⑥ 凍結路面対策～塩化ナトリウム・7 号砕石
- ⑦ その他

『福祉除雪サービス』～地域住民などから募った地域協力員が間口部分(概ね幅 1.5m)と、間口から玄関までの通路(80 cm 幅)を除雪する、地域の支えあいの制度(1 日 1 回)

『小型除雪機購入費の補助』～購入費用の 2 分の 1(50 万円限度)

\* 市道を 200m 以上、かつ 3 年以上除雪することが条件

『融雪施設設置資金の融資斡旋』無利子融資

※札幌市の 1 晩に行う除雪延長＝5,300 km(札幌～石垣島間の往復距離に相当)。作業員～3,000 人/日  
費用約 1 億 2 千万円/日。

※平成 25 年度の雪対策にかかる当初予算の内訳(プリントで説明)

約 151 億円～近年は補正予算をかけるのが当たり前になっている。昨年は 63 億円の補正を行っている。  
今年はすでに 11 億円補正している(国の労務単価上昇等によるもの)

#### 【雪対策を取り巻く環境】

『課題 1』 除雪事業者の課題～平成 16 年は 220 社→平成 24 年では 200 社に減少:ダンプトラック、除雪機械の課題～平成 14 年 3,398 台だったものが平成 23 年には 2,400 台に減少。

『課題 2』 排雪した雪の置き場不足:現在 74 箇所(市内・市外) 計画 2,500 万 m<sup>3</sup>に対し 2800 万 m<sup>3</sup>が搬入される。

土地の確保が難しい～雪堆積場所の多くが借地→土地所有者の都合で継続使用が困難。迷惑施設として近隣の協力を得にくい。→都市化～雪堆積場の遠隔化

『課題 3』 路上駐車・道路への雪だしによる作業効率の低下:雪だしは深刻な問題

#### 【課題解決に向けて】

『課題1』 発注方法の工夫：夏冬一体化による道路整備の発注～通年雇用を促進、マルチゾーン（除雪エリアの統合）～西区では北地区と南地区の2マルチ制

『課題2』 排雪量の抑制（試行）：路肩の一部をあえて残して運ばない。サービスの悪化につながるが……。生活道路のパートナーシップも同じ。しかしメリハリをつけるために、バス路線等は除雪の回数を増やしている。歩道除雪も通行量の多いところは回数を増やしている。

『課題3』 啓発活動：合同パトロールの実施、雪だし防止キャンペーン～地道な取り組み。広報誌や懇談会等で事あるごとにマナー啓発・地域と創る冬みち通信発行。

#### 【取り組み例】

積雪深 10 cm を 15 cm に変更し、交差点排雪に費用を回す。公園の活用～覚書必要、西区内は 84 箇所を実施。他に、自主的な砂巻き。

（説明終了）

○概要説明の後、地域ごとのテーブル割りでワークショップ形式で意見交換

#### 《視察担当私感》

テーブル上では対象地域の地図が掲げられ、その場その場における課題や注意点等が付箋紙によって可視化され、業者がその出来ない理由を説明することや逆に市民にお願いをしたりする光景が見える。また、業者も住民もプラスの要素とマイナスの要素を天秤にかけながら話ができることから状況の理解が進むと思われる。

また、行政や業者がテーブル進行をするのではなく、中立的立場のコンサルタント業者が場を仕切るため、話題の偏りがなく、住民にとっては不慣れなワークショップ形式に関わらずスムーズに意見交換が実施されていた。更にはこれらの意見を取りまとめ、「冬みち通信」という広報誌が作製されるが、その内容もコンサルがワークショップの内容に合わせて、市民から出た疑問質問への回答を含めた紙面となってくるとのこと。

担当にヒアリングをしてみたところ、この懇談会は当初は市長のトップダウンからスタートした。あまりの苦情の多さは「意見交換が足りないからだ！」ということで、地域懇談会を実施することになった。当初は丁寧な取り組みとして、少ない地域において実践と検証を複数年繰り返して精度を上げていく流れであり、平成 30 年度までに市全体の半分の地域で実施することになっていた。しかし、途中で戦略変更となり、平成 26 年までに全箇所を実施することになり、この西区においては今回が初めての開催となったとのこと。





その話の中で、なるほどと思わされたのが、市の職員が苦情処理に明け暮れるのは最も生産性のないことであることから、“苦情が来ないような流れを構築”するのが市の職員の仕事であり、それこそが《市民満足度を上げるのではなく、市民納得度を上げる》という取り組みであること。これは現在の岩見沢市の取り組みでは残念ながら希薄に感じる部分であり、我々も市民理解を高め、相互に納得した形でお互いに感謝しあえる三方良しの空気を作り出していかなければならないと感じた。

#### ▼各テーブルで共通していた意見

交差点雪山、雪だし、つるつる ゴミステーション 水たまり 歩道除雪（幼稚園、マンション、車通り多い～マンションが増えている、イオンがある） 公園の活用 パートナーシップの活用検討 実施タイミング 排雪の場所がない

#### 《視察担当私感》

いくらワークショップとは言え、出てくる苦情や要望はこの岩見沢とそんなには変化がないと 感じた。しかし、こういう場で話し合ったことにより、どうして今までその苦情対象の 事由が発生していたのか、どうして対応できないのか等々の理解が急速に進み、単純な苦情のはけ口にはならないのが見て取れた。また、その場で解決できない事象については、後日コンサルが関わって作られるペーパーの広報誌で回答を行うなど、その取り組みはその場しのぎではなく、非常に前向きであると感じた。



#### ○最後の挨拶 主催者側

30 年西区住まい。2 年前まで宮の沢駅をつかって通勤していた。地下鉄の駅ができてから急にマンションが増え、新しい住人が増えた。人が増えると大型店舗ができ、車往来も増えた、特に冬みちは安全に気をつけなければならない。除雪は家が建てば建つほど難しい。どこかに雪を置かなければならないのにその場所が失われる。

今回、この地区で初めて懇談会を実施出来て嬉しい。この後、「冬みち通信」という広報をつくる。今日、課題となつて残ったものはその通信で回答をつくって配布する。11 月～12 月になるかもしれないが、その頃にできて配布できると思う。

## (2)『冬道アドバイザー認定講座』

日 時：平成 26 年 1 月 28 日（火曜日）10：45～12：25

場 所：札幌市立豊平小学校

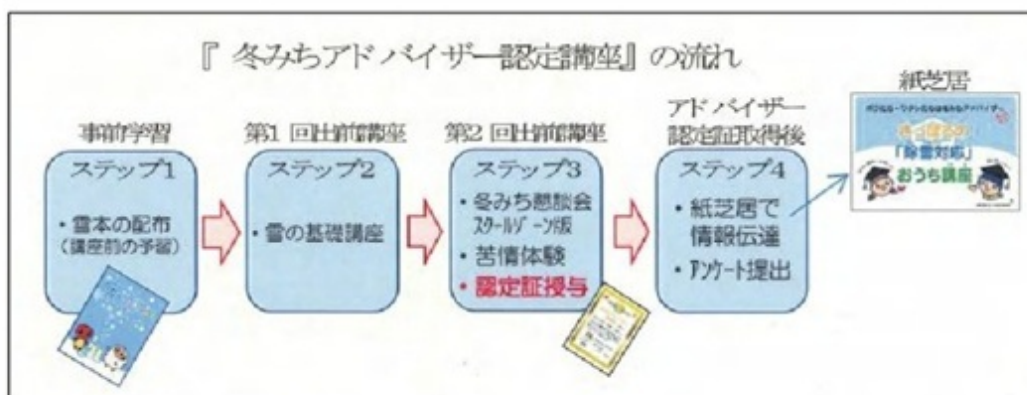
主 催：札幌市豊平区役所

参加対象：同小学校 6 年生

概 要：この講座は、子供達に冬みちについて大切な情報を身につけてもらおうと共に、それを身近な人たちに伝え広げていってもらおうと、豊平区の土木センターが企画した取り組み。

冬みちについて学んだ子供達を「冬みちアドバイザー」に認定し、紙芝居「おうち講座」を使って家族に習得した知識を伝えていくというのが狙い。

当日の進行は、下図のような流れで行う。私達が参加させて頂いた部分は第二回出前講座部分だが、児童には事前に『雪のプレゼント』という子供向け雪の絵本を配布し予習を求めている。第 1 回出前講座は 25 年 12 月 18 日（火）に行われ、雪が降る仕組みや除雪と排雪の違い、除雪機械の種類などの、基礎部分の理解を楽しく学んだとのこと。



私達が参加した第 2 回出前講座に関して、以下に詳しく説明する。

児童達は 7～8 人構成で班分け（通学エリアが近い生徒）がされ、それぞれが事前に通学路での危険箇所について調査しており、右記のような危険箇所のマップ作成から始まる。

＊予め、テーブルにマップが作成されている。

テーブルごとにコーディネーター（委託された業者）が入り、児童から危険箇所の意見を聞き付箋紙に書き込み、地図上に貼り出していく。



スクランブル交差点における車の間違いによる飛び出しの危険や、ビルからの落雪・つららの落下、狭い道路での歩道が埋まってしまう状況、スーパー

の駐車場への車両の出入りが雪山で見えにくい、マンホール箇所の凹凸などの危険ポイント意見だけではなく、滑り止めの砂巻きをしている箇所、地域の人が綺麗に雪はねをしてくれるところ、街路樹の枝が切られ落雪の恐れがないところ、等々の良い点の意見もあり、活発に発言している児童達が印象的だった。そのまとめを各班ごとに発表する。

発表後に区役所の方から、除排雪についてわかりやすく説明してある紙芝居を使って児童達に説明する。札幌市の除排雪キャラクターである「雪だるマン」が出てくるなどの演出もあり、より興味を持って楽しく学んでもらおうという主催者の意図がうかがえる。



紙芝居の後は体験学習として、「除雪説明体験」という電話対応のシミュレーションを実際に児童達が実践する。

こんなやり取りが行われる。

【苦情役】〇〇の〇〇といいます。今朝、除雪車が家の前の道路を除雪していった時、家の前に雪をおいていきました。すぐに雪をどけてもらえませんか？

【対応役】除雪車でかき分けた雪は、それぞれの家庭で除雪をお願いしています。時間とお金に限りがあって、かきわけのだけで精一杯なのです。

【苦情役】私は、高齢で体調も崩しているため、1人で除雪をするほどの体力がありません。近くに親戚もいないので、なんとか市役所で除雪してもらえないですか？

【対応役】除雪に困っている高齢の方たちには、福祉除雪という制度があります。これは地域の方の協力により個別に除雪を行う制度です。是非利用を検討してみてください。



等々のやりとりがアドリブ付きで展開され、また役割を交代してどちらも体験する。



最後に紙芝居が配布される（下部写真左側）。併せて、アドバイザーの認定証を授与されて終了となる。この認定証と一緒に、区のキャラクターの入ったボールペンと定規も配布される（下部写真右側）。

そして、この認定証を 2 月に開催される地域の雪まつりに持って行くと、記念品がもらえる仕組みになっている。そうすることで、その地域雪まつりの集客にも繋がるという仕組みをしっかりと構築している。



#### 《視察担当私感》

行政としてのこれからの除排雪事業に対する必要だと考えるスタンスが明確に表れている一つの事業だなと感じた。要は今後の除排雪事業を考えた時、予算縮減、業者の減少といった課題に対し、市民の除排雪に対する理解度を深めていく事が絶対に必要不可欠だということだ。そういった理解度を深めるための手法としては非常に画期的で有効な、素晴らしい取り組みだと感じた。

- ① 子供達への教育という観点から見ても楽しく世の中の課題を学べること。
- ② 子供達が学んだ事を親に伝える仕組みであることから、共に課題を共有することで意識が向上すること。
- ③ 少なくとも市民が関心を持つことの有効的なツールであること。

地域と行政が、情報を共有し、このような取り組みや懇談会のような話し合いで地域での除雪方法、役割分担などを決めることによって、地域住民の除排雪に対する。

理解が深まる事で、ルールやマナーを守るとの意識が向上し、市民の不平不満の苦情が減少するなどの効果が表れてくるものと思う。そして何より自分たちができることは自分たちですという意識を持っていただくことが重要である。この能動的な取り組みついて、岩見沢市としても十分に検討し取組むべき事例と考える。



### (3) 市民と議会の意見交換会

日 時：平成 25 年 11 月 11 日（月）18：30～20：00

場 所：旭川市議会議場

主 催：旭川市議会議員

参加者：議員 15 名、発表者 4 名、市民約 30 名、  
議会事務局数名

#### 【概要】

旭川市議会が平成 25 年度に実施した市民と議会の意見交換会の一つに「除排雪のあり方とマナーを考える」というテーマがあり、岩見沢シチズンのメンバー3人で旭川市を訪問し、傍聴。行政による「旭川市総合雪対策基本計画」の状況や地域による「市民委員会」の活動などがそれぞれ報告されたほか、市民からの質疑応答がおこなわれた。

#### 【地域における取り組み】

旭川市では、地域における親睦や連帯をはじめ、住民要望の反映、地域課題の発見と解決、地域内利害の調整などを図る組織として、複数の町内会単位で市民委員会を形成している。このうち、17 の町内会で構成される永山第三地区市民委員会

では、快適な冬の生活と交通の確保に向け「冬の生活道路を守る協働意識の向上」活動を実施。各町内会から 1～3 人の委員を選出して実行委員会を立ち上げ、①啓蒙普及部②排雪量削減部③パトロール部を設置して以下の活動を行っている。

- ① 啓蒙普及部～勉強会、住民説明会、パンフレットやポスター配布など
- ② 排雪量削減部～雪置き場（民地、公園）の確保、空き地提供協力者の調整など
- ③ パトロール部～昼夜のパトロール、啓発看板の設置など

これらの活動を通じて、雪出しや路上駐車禁止、深夜早朝の市除雪作業への理解促進などを図った結果、苦情件数が 3 分の 1 に減少。また、空き地などの雪置き場の確保も進み、歩道の雪山を低くすることで交差点の見通しが良くなるなど、生活環境や交通環境の改善が図られた。

#### 《視察担当私感》

雪出しに対する注意など、当初は反発もあったそうだが、複数の委員で継続して対応することなどで次第に理解が広まったという。地縁組織が活動することにより、住民への注意喚起や協力要請が円滑に進む好例と思われ、公益性を背景に活動を積み重ねて認知度を高めていくことが重要と考える。

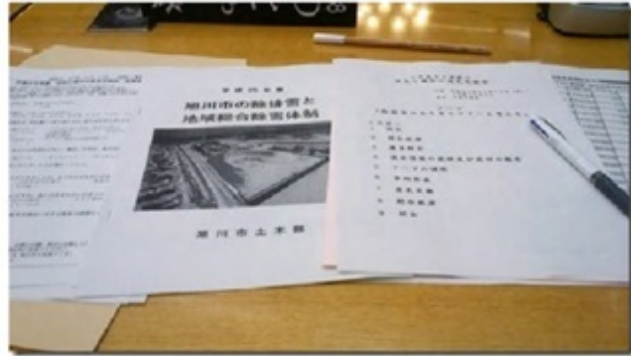
#### 【行政における取り組み】

旭川市は、安全で快適な冬の街づくりを進めるため、市民、企業、市（行政）がそれぞれの役割を認識しながら協働して雪対策を進める「旭川市総合雪対策基本計画」を平成 7 年に定めた。計画期間



(概ね 10 ヶ年)後の平成 17 年に新計画を策定したほか、経済・社会情勢の変化を考慮し、平成 27 年を目途により新たな計画の策定を進めている。

現計画(平成 17 年～)では、①除雪水準の適正化と効率化②雪に強い市民の育成と官民協働の推進③少子・高齢社会に対応する雪対策④雪と親しむ街づくり⑤克雪・利雪の



技術開発～を施策の柱に据え、幹線的生活道路の適正配置による生活道路交通の円滑化、幹線道路の交差点などでの見通し強化策の検討、市民・企業・市(行政)の役割分担・協力体制などを明確にした「冬の暮らしガイド」や児童生徒向け副教材などの作成、雪氷冷熱エネルギーの利用など雪や寒さを資源とした施策の検討などを進めている。

来場した市民からは、

- ・除雪センターから夜の 12 時以降に雪が降っても決まりだから出勤できないと言われる。
  - ・市の策定した新総合雪対策基本計画の内容について市民はよく知らない。しっかり市民に周知するべき。市民委員会の取り組みは素晴らしいので、協働という視点で広めるべき。
  - ・公道に排雪する市民に対して、強制力を持った制度を作るべき。
  - ・除雪センターの能力には限界があるため、除雪センターから市民委員会や町内会等に地域の状況を伝達するなどの体制の整備が必要。
  - ・除雪連絡協議会というのがあるが、実際に意見を言う機会がない。
- …などの質問・意見が出された。

#### 《視察担当私感》

市民の声を聞く限り岩見沢市と大差ない状況と感じる。雪対策の根幹をなす基本計画の存在は大きく、前記した市民委員会の取り組みなどさまざまな事業が進められている一方で、まだまだ周知不足も否めない感を受けた。

このほか、旭川市が実施している住民向けの支援制度を結びとして付記する。

- ①タイヤショベル・ダンプトラックの貸出し～町内会等の市民組織が自主的に道路の除排雪作業を実施する際、「積込機械」か「運搬車両」のいずれか一方を運転手付で貸出す制度。
- ②移動式小型融雪機小型除雪機の貸出し～高齢者など自力で除雪が困難な世帯に、ボランティアで除雪を行う団体や道路の除雪を自主的に行う町内会を対象に「移動式小型融雪機」か「小型除雪機」を貸し出す制度
- ③除雪弱者援助制度～高齢等で自力で道路脇にかき寄せられる雪山の処理が困難な世帯を対象に、除雪時に間口に雪を置かないように配慮した除雪を実施する制度

#### 4. 私たちの取り組み ～岩見沢市における地域除排雪懇話会～

##### (1) 開催経緯

これまでの調査の結果、私達は今の岩見沢市の除排雪活動全般において、最も足りないのは市民、業者、行政の相互理解であると考えます。よって、その三者の意識共有の場を実験的に設け、どのような意見が出るのか、また、どのような議論と結論に至るのかを実証することが不可欠であるとの認識から、実際に市内で活動する地域に参加者として出席を依頼するのではなく、岩見沢シチズンと地域が一緒に主催する「共催」で実施したい旨の依頼をする事とした。その依頼地区選定にあたっては、長年岩見沢市の住民自治モデル地区として推進し、高いレベルでの地域活動を展開している「緑が丘地区町会連絡協議会」「上幌向地区町会連絡協議会」の2地区に依頼をし、共に快諾をいただいた。

また、除排雪業者への依頼においても、当該地区の路線除雪を担当する全業者に参加依頼をさせていただいた結果、日頃は自分たちの意見を公式に発言する場が無いことから、このような機会は非常にありがたく、当日は是非とも作業当事者としての意見を述べさせていただきたいと快諾をいただいた。

岩見沢市役所においては、除排雪対策本部に参加依頼をしたところ、当初は通常の行政主催の除排雪説明会の様な一方的な苦情対応もありうる事から参加に懐疑的な対応をされたものの、当方で中立な運営を行うこと、また、あくまで陳情要望の場ではなく、それぞれの意見を抽出し相互理解を深めるための議論の場であることを理解いただき、参加いただける事となった。特に緑が丘地区での開催においては、土曜日の開催であったことから休日を返上しての参加になったにも関わらず積極的な参加をいただき、また、両日とも若手の職員を中心とし、快活な発言をいただいた事を申し添えさせていただく。

##### (2) 開催方法

###### <開催方法>

住民(複数名)・除排雪業者(1名以上)・行政担当者(1名以上)が、同じテーブルを囲んで互い考えを伝え合うディスカッション方式を採った。岩見沢シチズンからは、テーブル進行役1名、書記1名が参加。全体進行役に、札幌市で10年以上にわたり除排雪問題のプロジェクトに取り組んできたイメージ・ランドスケープ・プランニング 酒井裕司氏を迎えた。

###### <タイムスケジュール>

1. 趣旨説明(5分)…岩見沢シチズン 平野義文
2. 地域会長挨拶(5分)
3. 市役所からの概要説明(実施地域における規模・予算等々の実情)(8分)…岩見沢市役所除排雪対策本部(建設部土木課長)坂野靖文氏
4. テーブルディスカッション(50分程度)
5. 各テーブル発表(5分)…テーブル進行役
6. 全体まとめ(5分)…岩見沢シチズン 和田範美

###### <準備物>

- ・各地区の大型地図

- ・大判の付箋紙（3色）
- ・書記用マジック
- ・飴などのお菓子

#### <ルール>

不平不満をぶつけ合うことが目的ではないため、  
活発な発言を促せるよう以下のルールを設定した。  
(右図参照)

1. 人の話には耳を傾ける  
他の人が話をしているときには遮らず、耳を傾けましょう。
2. 否定したり批判したりしない  
いろいろな意見を受け入れてみましょう。
3. 結論を急がない  
意見やアイデアを出し合ってみましょう。  
結論はその先です。
4. 不平や不満を持ち出さない。それは別の場で。今日は前向きに過ごしましょう。



#### <進め方>

テーブル進行役は三者が意見を出し合えるように采配し、書記がその意見を付箋に書き、地図に貼り付けながら進めていく。時間は 50 分を目途とした。

1. テーブル内の自己紹介  
各自で名前・挨拶程度の自己紹介
2. ルールの説明  
テーブル進行役より、前述のルールについて説明
3. 意見交換

まず住民から現在の課題、要望を抽出した。業者・行政へは、どうしてその要望に応えることができないのか、もしくはこうする事によって応える事ができる等々、実情の意見交換をおこなった。出された意見は色分けした付箋（住民：イエロー、業者：グリーン、行政：ピンク）に書き込み、地図へ貼り付けていく。お互いが納得した事、納得に至らなかった事、今後の課題として残して置く事も列挙した。この場では無理に結論を急ぐような事はせず、今後の課題として残しておくこととした。



### (3) 地域懇話会実施報告

#### ①上幌向地区

実施日時：平成 26 年 2 月 21 日（金）14:00～

実施場所：上幌向地区多目的研修会館

参加者人数：住民 13 名、業者 3 名（小谷建設(株)、  
(有)三戸建材、公南山明建設(株))、  
行政 3 名（岩見沢市役所）、岩見沢  
シチズン 6 名（田中、中谷、  
平野、松岡、和田、田口）、オブ  
ザーバー酒井、合計 26 名



＊二つのテーブルに分かれて実施

▼上幌向 第 1 テーブル（テーブル進行役：中谷、書記：松岡）

論 点	住 民	行 政	業 者
空地の活用について	<p>〔問〕市は空地を借りて堆雪地にしているが、残雪の排雪をしているのを止めた。それにより春先の菜園作りなどに支障が出るため、貸すのを躊躇してしまう。</p> <p>・雪押し場所に押し込んだ雪を春に始末してくれないなら場所を貸せない（貸したくない）。</p>	<p>〔答〕確かに昨年度から、春も残雪はそのままにすることになった。</p>	<p>・押す（走る）距離が長くなると雪を積まざるを得ない→雪押し場所の確保の必要性。</p> <p>・上幌向には 6 カ所の雪押し場所がある。</p>
除排雪体制について	<p>・〔問〕早朝に降った雪の対応をしてほしい。</p> <p>・業者によってムラがある。道路一本挟んで全然違う。</p> <p>・業者の変更時には話し合いの場があるとよい。</p>	<p>ダンプの確保が難しい。</p>	<p>〔答〕除雪の基準は深夜 12 時まで 10 c m の降雪。</p>
玄関前の雪について	<p>町内には置き雪を避けるために家の前に“雪の壁”を作っているお宅もある。それが悪いわけではないが、間口を広くキレイにする人ほど、重い置き雪を投げる労力がかかるのは何だか理不尽。</p>		
安全面	<p>・歩道整備（除雪）によって車道が狭くなる。</p> <p>・子どもの雪遊びが事故にならないか心配。</p> <p>・交差点の積み雪で見通し利かず。</p>		

自主排雪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シーズン 2 回の自主排雪でも取りきれないため、通学路や幹線道路は市でしっかりと排雪して欲しい。</li> <li>・自主排雪があると思えば少々は我慢できる。</li> </ul>		
その他意見等	地区除雪センターがあるため、素早い対応と苦情対応をしてもらっている。		

## 【感想】

### (進行役)

進行は、三者が直接対決とならないよう、私が三者へ質問をしながら色々と教えてもらうという形式とした。しかし、途中からはそのような心配は余計であったと感じた。住民は除排雪体制にはおおむね不満は少ない……というよりも、我慢のしどころをわかまえている雰囲気を感じた。その一つの要因に、町内での自主排雪体制を敷いていることに不満を上回る満足感や地区の一体感を、住民同士が感じている様子がうかがえる。

自主排雪により、再び過ごしやすく排雪された街区が戻ってくるということを知っているから「自主排雪までは我慢がまん…」と、少々不満は打ち消せるのだという雰囲気を強く感じた。

### (住民)

女性の観点から感想を述べたい。業者さんを信頼していろいろな気遣ってくれていることが伝わってくる。例えば、ゴミステーション周辺の雪かきをササッとでもしてくれているので助かっている。もし高齢者宅を知っていればその前もちょっと気にしてほしいなと思う。そんな気配りに感謝しつつ、今後も継続をお願いしたい。

## ▼上幌向 第 2 テーブル (テーブル進行役：田中、書記：田口)

論 点	住 民	行 政	業 者
空地の活用について	[問 1] 空地に排雪してはどうか？ [問 2] 上幌向の近くにも排雪場を置いてほしい。	[答 2] 実験段階だったのでできない。 ・空地を活用して排雪しても、春先になって「状態が悪いから直してくれ」と言われると困る。	[答 1] 申し出がないと勝手にはできない。
除排雪体制について	[問 3] 市で計画路線に入っていない道路を計画路線に入れてほしい。 [問 4] メイン道路を自主排雪する前に除雪してほしい。	[答 3] 計画路線にするには歩道除雪が必要。パトロールなどの判断で行ったほうが良いのではないかと。	[答 3] メイン道路は計画路線に入っている。入っていない所でも状況に応じて除雪している。また、今の

		[答 4] 自主排雪の前にメイン道路の除雪をしたが、その後に降り積もってしまった。	除雪体制を維持するのが限界。
玄関前の雪について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、出かけるときに出られるよう除雪しておくのが大変。</li> </ul> [問 5] 道路に雪を出す人が多い。決まりを作って出さないようにした方が良い。	あまり降っていないのに敷地の雪を道路に出して除排雪してもらおうとしている住民もいる。	[答 5] 道路への雪出しは地域によって差がある。地域ごとに意識を高めてほしい。
安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地条件からか事故が多い。</li> <li>・通学路の歩道の除雪が必要。</li> </ul>		雪道や積雪、雪山の危険について、学校で指導したほうが良い。
その他意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たち住民側も除雪による置き雪の理解が足りない。</li> <li>・除雪ができなくて町内を去る人もいる。</li> <li>・高齢者援助などの制度を頼みにくい。</li> <li>・苦情が町内会長・部長のところに集中する。地区除雪センターを設置することで減少。</li> </ul>		

## 【感想】

### (進行役)

率直に感じたことは「住民自治」が出来ているということ。自分たちでできることは自分たちです、住みやすい地域にしていこうという意識が高い地域だと感じた。とはいえこの雪問題においても全てのことが解決するには中々難しいとも感じた。三者から様々な意見が出され、どこまで住民で出来ることなのか、どこからは業者や行政に頼る、もしくは解決を委ねるのかを今後明確にしていくことが、ここの住民自治を高めていく一つの道筋なのかと感じた。その他、どの地域にも当てはまるのかと思うが、独居高齢者宅など除排雪対策も課題となるだろう。

### (住民)

業者さんのほうで取り組む面もあるし、ルールや注意喚起など町内会で取り組むべきこともある。高齢化してきた町内会だけではなく、市や広く住民と取り組むべき問題だと思う。



## ②緑が丘地区

実施日時：平成 26 年 2 月 22 日（土）13:30～

実施場所：緑が丘連合会館

参加人数：住民 6 名、業者 2 名（（株）菱和、（株）西方建設）、行政 3 名（岩見沢市役所）、岩見沢シチズン 5 名（平野、藤根、布目、和田、中谷）、オブザーバー酒井  
合計 17 名



＊二つのテーブルに分かれて実施

### ▼緑が丘 第 1 テーブル（テーブル進行役：中谷、書記：和田）

論 点	住 民	行 政	業 者
角地の置き雪について	〔問 1〕 L 字角地の隅への置き雪はどうにかならないか。		〔答 1〕 気持ちはわかる。しかし、街区の造りが押し付けられるようになっているのなら良いのだが、そうではないのが現状。
除雪時間について	〔問 2〕 未明から朝方にかけて積もると、道道に出るまでが大変。除雪時間を降雪に合わせるなど考えてもらえないか。		〔答 2〕 出動は夜中だから早朝の降雪への対応は難しい。通学路のため生徒がいると、作業での危険もある。
玄関前の雪について	〔問 3〕 玄関前の雪をちょっと取っていつてもらおうと助かる。		〔答 3〕 重機の性能は皆さんが思っているほど強くない。雪を掻き取るために機械の先端を曲げすぎると前に進まなくなるほど、実は弱い。
その他 意見等	・緑陵高の通学路に雪が落ちてくるような屋根勾配が危険。	・除雪説明会では不満をぶつけられる方が多いため、住民の方々が真剣に理解を示してくれているのを見て感激している	

### 【感想】

#### （進行役）

三者それぞれが思っていることを出し合い、相手の都合を受け止めることができた。住民も「業者さんに言ってもなんとなく難題なんだろうな…」と思われることも、まずは言うことで「そういう理由で難しいのか」ということが理解できたと思う。それで住民の問題が解決したわけではないのだが、そんな「やりとり」をしたことで、気持ちを一つ消化したり、区切ることができたのではないだろうか。

▼緑が丘 第2テーブル（テーブル進行役：布目、書記：藤根）

論 点	住 民	行 政	業 者
川への投雪について	〔問1〕雪を投げる場所として、川に投げるのはできないのか。近くに川が流れているから。	〔答1〕 去年までは、流雪溝という試験事業を行っていたが、今年には行っていない。	
空地の有効活用について	〔問2〕 空地はもっと利用できるようにした方が良い。お父さんの代の時は使えた空地が、息子さんの代になって使えなくなってしまった。重機が入って土地がぐちゃぐちゃになったり、夏の草刈だったり、色々あった為。	〔答2〕 地域の雪の押し場は減ってきている。いま、空地の有効活用ということを行っている。	〔意見2〕 空地があつて、そこにいくらかでも雪を押して良いというのであれば助かる。いくらかでも雪を押すことはできるから。
その他 意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩見沢の除雪は良い。他の町と比べたら全然良い。</li> <li>・緑が丘第一町内会では、自主排雪を去年から始めた。</li> <li>・ここ3年くらい雪が多いので、戸惑っている人が多いのではない。</li> <li>・高齢化で屋根の雪下ろしも気になる。やってあげたいけど、自分のところで手一杯。</li> <li>・市民はもっと我慢が必要！昔は踏み固めていただけだった。</li> <li>・除雪はまちの総合力。人がどうか、業者がどうかという問題ではない。自分でできることは自分です。</li> <li>・空家・空地対策が必要。空家を壊して更地にすると、土地の税金が高くなる。税制的に誘導して、空家、空地対策を行えないか。</li> <li>・地域の雪押し場が減っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレームについては、道路が狭いから幅を広くしてほしい、歩道のことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豪雪後の完全排雪には約1ヶ月かかる。</li> <li>・機械を2台出している。1台あたり住宅街だと5キロやるのが限度。夜中12時30分に準備、出動。出動までには1時間はかかる。</li> <li>・朝方4時とかに降ってしまった場合、それから準備・出動すると、朝の通勤時間と重なってくるので、危険性を考慮して市役所から怒られても出動しないようにしている。その代わり、その晩から、しっかり除雪に出動して、路面を整えたりするようにしている。</li> <li>・雪出しをする方は困る。住宅街の道は細い、そこで雪出しされると、結局大きい道路に出たところで、雪を溜めざるを得ない。だから、大きい通りと住宅街の通りの所が見えにくくなる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪かきは文化。子どもに手伝ってもらって、やっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち場の町内会の方と話を して、一人暮らしの高齢者のお宅の前には、できる限り雪を置いていかないように配慮した除雪に取り組んでいる。オペレーターに徹底している。→目印になるものを、一人暮らしの高齢者のお宅の前に付けておいてもらって、その家の前については、グッと入り込む形で除雪をして対応している。</li> </ul>
--	---	--	--

## 【感想】

### (行政)

- ・今日の話で、取り入れていかなきゃならないものについては、今後の事業に取り入れていかなきゃいけない。

### (住民)

- ・とっぴな意見を出せる、このような場は良い。良い考えも、とっぴなアイデアから生まれることが多いと思うから。
- ・自助、共助、を大事にしていきたい。
- ・川に雪を投げられないか？投げる場所として利用できたら良い。除雪でこんなことをしていると伝える手段が無い。広報に書いてあったとしても、一体どれだけの人が広報を読んでいるか。集まって、生の声を聞いて、アレもコレもと出てくるので、他の人にも参加してもらおうようなことがあれば良い。
- ・三者の立場というのが分かった。町内会は助け合い、そして、少しでも行政の負担がかからないように、皆さん理解し合えるようになれば良い。

### (業者)

- ・業者だけが悪いわけではない。それを分かってもらうことが難しい。他の地域より岩見沢の除雪は良いということをわかって欲しい。今日は、いろいろ話が聞けて良かった。

### (進行役)

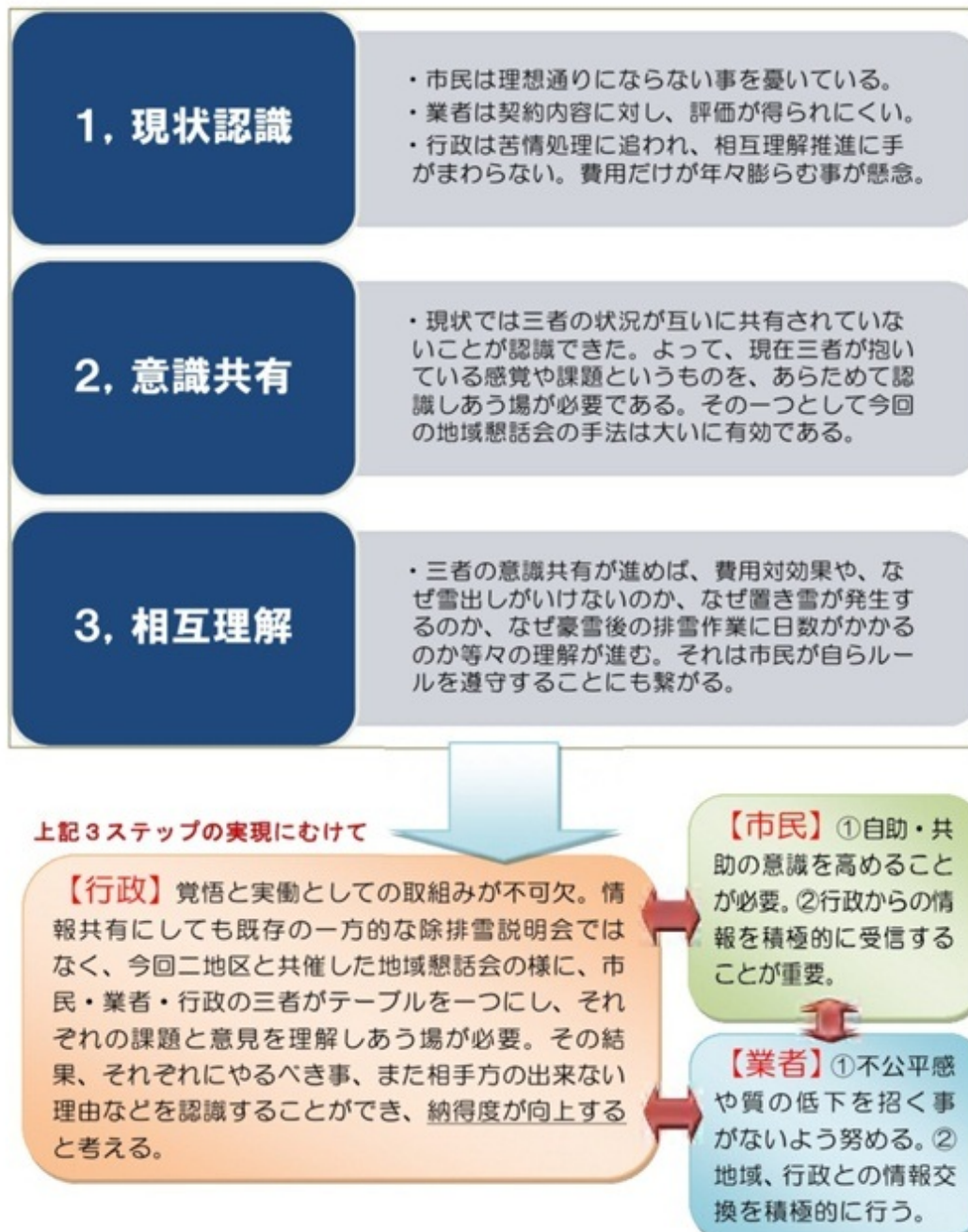
- ・住民、業者、行政、三者三様の思いや考えはある。しかし、共通しているのは、この町で暮らす岩見沢市民だということ。同じ市民として、少しでも快適に暮らしていくことができればというのは、誰もが望むことだと思う。今日のような話し合いで、お互いの違いと、それから同じ思いの部分を理解しあっていくことで、また良いまちづくりをしていくことができれば良いと思う。



## 5. まとめ ～三方良しの除排雪体制の実現に向けて～

平成 25 年度、岩見沢シチズンでは、「除排雪に関する課題は、市民・業者・行政の相互理解を深める事が解決に向けた切り口なる」と考え研究を進めてきた。

その結果、以下の流れが重要であると認識するに至る。



前頁の図の流れの様に、三者それぞれに担うべき役割があり、その中心を担うのが行政の役割である  
と考える。その最初のステップとして、相互理解を深め市民納得度を高めるための取り組みが必要であ  
り、その先例として前述の他都市の取り組みの様に、情報共有のための施策が必要である。岩見沢市に  
おいても昨年ガイドブックが発行されたが、札幌市の例を参考にすると、より見やすい絵本や動画等々  
で広く市民に発信するなど、今後は小学生などの子どもを対象として教育の場でルール等を教えること  
から各家庭にも伝播していくことに繋げることが課題となってくる。

また、除排雪対策本部の考え方に関しても、もう一つステップを高めた取り組みが必要と考える。  
現在の岩見沢市除排雪対策本部では、多くのエネルギーが市民からの苦情処理に使われてしまっている。  
その苦情内容としては置き雪に関するものなど、本来苦情としては発生し得ないものが多く、市民理解  
が進めば必要の無い労力と言っても過言ではない。これまでの調査における他都市担当者の印象的な  
言葉として、「除排雪の市民対応においては、苦情処理に時間を割くのが最もナンセンスであり、いかに  
苦情が来ないように取り組みを進めるかが大事な仕事である」という意見を伺った。残念ながら現在の  
岩見沢市にはこの概念が不足していると感じている。その結果、一部の市民においては、ひたすら市民  
満足度を追求すると言った状況が発生し、それこそが互いに不信感を育むマイナスな要素に繋がって  
いると感じる。

この相互理解を深めるためには、三者それぞれの役割を認識することが必要である。

市民は自助・共助の意識を高め、更に情報の受信を始めとする判断軸の形成により、行政・業者への  
依存体質を改善していくことが必要である。

業者は、必ずしも技術レベルが一定では無い。また、同じ路線内においても置き雪に関する不公平が  
発生することも事実である。そういった状況を真摯に改善していく努力が必要であり、尚かつ現場の  
最前線にある立場として、地域・行政との情報交換等の弛まぬ努力により、より良い除排雪環境の構築  
に努めるべきと考える。

しかし、それらをリードするのは、やはり行政の大きな役割であると認識している。この有数の豪雪  
地である岩見沢市において、より良い相互理解を深め、より納得度の高い除排雪体制を構築するために、  
年間を通してもっと真摯に除排雪の事を考える事が重要ではないだろうか。例えば年間を通した担当  
セクションの設置である。

このような取り組みがより高度な市民理解を育み、この豪雪を地域文化として高め、本当の住民自治  
が進むきっかけとなると考える。



## 6. おわりに

今回、私たち岩見沢シチズンが実践した「地域除排雪懇話会」は、他市の事例を参考に、実験的な試みとして実践したものです。その本質を簡潔に言えば、「同じマチで暮らす、同じ市民という立場で、文句や批判を抜きに、ちゃんと除排雪について考えよう!」、ということになります。

「同じマチで暮らす、同じ市民」という共通項に依拠しているお互いでありますから、互いの立場をわきまえ、互いの大変さに共感していくことは大切です。そして「大変さへの共感」をスタートに、様々な除排雪を巡る課題を解決するためのアイデアを話し合ってみることが、三方良しの除排雪体制につながると確信しています。

私たちが実践した地域除排雪懇話会が、どこまで有意義なものであったのかは明確ではありません。しかし、開催して分かったことが一つあります。それは、除排雪の問題は私達には制御することが敵わない「自然」に起因する雪の問題であるが故に、お互いの大変さに共感し感謝の気持ちを寄せ合いながら、共に解決の方途を探り出すことが除排雪事業に対する納得度を高めていくのではないかと、ということです。

この提案書をまとめ、行政に提出させて頂き、また、広く市民の皆様の目に触れる機会を得ることができたことに感謝しております。

本書を手にとっていただいた皆様が、この提案の中から新たな着想を得て、「三方良しの除排雪体制の構築」の一端を担っていただけたなら、大変うれしく思います。もちろん、私たちの提案にも不足があります。あくまでも、本書をきっかけとしていただき、市民から或いは行政・業者から、互いのことを理解し共に考え行動する【共働の場】をこれまで以上に積極的に設けて、より良い施策・事業を推進することができたなら大変嬉しい限りです。私たちは市民として、喜んでその場に参加させて頂き、共に考え合いたいと思います。

結びに、この度、お忙しいところご参加くださった行政職員の皆様、住民の皆様、業者の皆様、また、他市の事例に参加させて頂いた際お世話になった皆様に、この場を借りて心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



平成 26 年 5 月 12 日発行  
発行人：岩見沢シチズン 代表 内田茂伸  
【連絡・問合先】  
〒068-0004  
岩見沢市 4 条東 3 丁目 3 松岡瑞翔  
電話：090（8639）4422  
Mail：EZP00623@nifty.com